

大相撲観戦印象雑書き  
四つのやっぱり そして

< 1 > やっぱり稀勢の里引退

場所前の稽古場風景がニュース等で流されていたので、稀勢の里の様子を中心に観察。インタビューへの対応内容から見ると、「順調に仕上がっている」という表現が聞こえてきたが、稽古土俵の様子からはそうは見えなかった。腰高のまま左を差して、右は相手の腕を抱え込む相撲が目立ち、勝っている場面もありはしたが攻撃力も安定感も感じられなかった。腰が下ろせない理由、左でおっつけを出来ない理由、右で上手を引けない理由等々肉体的な事情が潜んでいるに違いない。横綱昇進前後の場所ではそれが出来ていたのも、本人が打ち明けられない何かの事情があると睨んでいる。(参考情報：<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/sumo2901.pdf> ) その結果、「引退発表」と言うことになったのだが、私見としては、前述の様なこともあり「やっぱり」と言わざるを得ない状況になってしまった。

< 2 > やっぱり大関は役に立たず

横綱が不調な時に、その穴を埋める活躍をするのが大関で、その中でも抜きんでた力を身に付けてきた者が次の横綱の座を射止めることになるのが普通の姿。東の大関高安は場所前にインフルエンザに罹って稽古不足と報じられていたが、案の定一日ごとに白星と黒星を繰り返す始末。西に座す豪栄道は初日から4連敗で見ているのが恥ずかしくなるような状態。栃ノ心も怪我が癒えないとのことで、4連敗の後に休場。そして14日目になって、高安は怪我で体が思うように動かない御嶽海を破り、豪栄道は休場の白鵬からの不戦勝で、ようやく勝ち越しに辿り着いた。大関三人の成績を合計すると18勝17敗10休。大関を破った力士がインタビュールームに呼ばれてテレビ画面の前に登場するが、「何でこれが殊勲の星なの？」という白々しいインタビューで、目を覆いたくなる。「あの程度の大関に勝った位じゃ、何の感動もありませんね」と言う人がいても悪くないなと思った。横綱の穴を埋める大関がいなくとも、次に横綱になれるような大関がいなくともを意味しており、由々しき問題である。そんなことには気がつきもせず、「次の大関」と囁し立てる輩がいるのには呆れるほかない。仮に成績優秀な関脇がいたとしても、一場所二場所の雰囲気や勢いで瞬間風速評価するのではなく、大関という重みのある地位を任せるに値する力士か否かをある程度の時間をかけて見極める必要がある。直前3場所の成績ばかりに頼っている今の仕組みを改め、直前6場所(一年間)の成績を加味した大関昇進基準を考えるべきじきではないかと感じている。

< 3 > やっぱり白鵬も下り坂か

稀勢の里が消え、鶴竜が休み、大関は箸にも棒にもかからぬ状態となると、やっぱり優勝は白鵬だろうと、おおかたの相撲ファンは想定していたに違いない。前半の土俵では、北勝富士戦・錦木戦などでヒヤリとする場面がありはしたが、10日目まで連勝で、やはり、締めるところは締めてくれるのだろうと見ていた人が多かったと思う。ところが、11日目の御嶽海戦を境に歯車が狂い始めた。御嶽海は6日目に膝上・大腿部を痛めて4日間休場し、11日目に再出場したが、誰の目にも「相撲をとれる状況」には見えなかった。白鵬は立ち合いで全力投球すべきか否か逡巡したように見える、ふわりとした立ち合いになってしまった。かたや御嶽海は、痛みもあってまともに相撲をとれる状況ではないにも関わらず、死にもの狂いの見事な立ち合いで、白鵬を一気に土俵際まで運んでしまった。

そして、その翌日から白鵬は玉鷲・貴景勝に連敗し、この間に足を痛めて遂に休場。場所前稽古で掴んだ肌感覚、「北勝富士にはまだ負けない」「錦木はまだまだ」と読んでいたが、実は思いのほか力を付けて来ていることに気づき、びっくり。怪我をした御嶽海をも甘く見過ぎたし、これまで一度も負けたことのない玉鷲の力に驚き……。失礼な言い方になるかもしれないが、多少の慢心と読み違いがあったのではないかと感じた。さらに、さすがの白鵬も下り坂に入り、重なる不運を乗り切れる状態ではなくなったのかもしれない。

#### < 4 > そして賜杯の行方は

稀勢の里の去就やいかに？ 貴景勝は連続優勝できるか？ 御嶽海は復活するだろうか？ などなどに注目が集まる中で、前半 2 敗を喫して賜杯争いからは遠ざかっていた西関脇の玉鷲が、淡々と自分の相撲を取り続けて最後に逃げ切った。34 才、1100 回以上の連続出場回数を誇るベテランが積年の夢を果たして賜杯を手に入れた。千秋楽まで賜杯を争った相手が東関脇の貴景勝、横綱・大関不在の状態、番付順位通りに関脇が優勝したことで相撲協会のメンツがさらに大きくつぶれずに済んだのは僅かな救いだった。

長身ながら前傾姿勢を取りながら、きれいに手が伸びる突き押しと、前へ前へとスムーズに運ぶ足で移動していく重心、後退しない相撲、叩かない相撲が功を奏した。

「関脇が強い場所は面白い」と言われてきたが、まさにその通りの場所になった。

#### < 5 > やっぱり世代交代か

今場所好成绩を上げた力士を年齢別に（5 年刻みで）並べてみると……

生年	1981～1985	1986～1990	1991～1995	1996～
力士名	玉鷲	勢、魁聖、佐田の海 遠藤、千代の国	北勝富士、御嶽海 阿炎、矢後	貴景勝

1990 年代に生まれた力士が増えて、若手の台頭が著しいことがあらためて認識できる。その中で玉鷲のような力士が活躍していることも事実であり、十両には再入幕を狙っている豊ノ島もいる。きちんと稽古を積み重ねてきた力士が、年齢を重ねても相撲を取り続けているようにも見えてくる。明らかに世代交代が進んでいることがうかがえるのだが、その中で中間世代（1986～1990 年生まれ）にも注目しておく必要がある。若手有望力士と言われた時代が徐々に遠ざかり始めており、次の世代に襲われながらも「奮起の時期」に来ていると言える。

そして、この表には現われていないが、ひところ「次の大関は？」「次の横綱は？」と噂された力士達も少しずつ戦列から外れ始めていることも事実である。

間もなく 2000 年代生まれの幕内力士も出てくることになり、実力を備えたベテランと、新しい力の襲来とに挟まれて、白鵬を筆頭に横綱・大関陣は難しい局面に立たされつつある。群雄割拠・戦国の時代に突入し、次のヒーローは誰になるだろうか、目が離せない事態になってきた。

以上

◆別表（次ページ）：平成 31 年初場所 優勝争いの足取り

平成 31 年初場所 優勝争いの足取り

	無敗	1 敗	2 敗	3 敗
初日	20 人	<省略>		
2 日目	13 人	<省略>	<省略>	
3 日目	白鵬・貴景勝・御嶽海・ 錦木・碧山・魁聖 千代の国・北勝富士・ 阿武咲	鶴竜・玉鷲・逸ノ城・ 琴奨菊・佐田の海・ 矢後・豊山・遠藤・ 阿炎・千代翔馬・ 琴恵光	<省略>	<省略>
4 日目	白鵬・御嶽海・錦木・ 魁聖・千代の国・阿武咲	貴景勝・玉鷲・ 逸ノ城・北勝富士・ 碧山・矢後・豊山・ 阿炎・琴恵光	鶴竜・高安・琴奨菊・ 千代大龍・竜電・ 宝富士・隠岐の海・ 佐田の海・遠藤・ 琴勇輝・千代翔馬	<省略>
5 日目	白鵬・御嶽海・魁聖・ 阿武咲	貴景勝・逸ノ城・ 錦木・碧山・矢後・ 千代の国	高安・玉鷲・北勝富士・ 琴奨菊・豊山・ 隠岐の海・遠藤・阿炎・ 琴勇輝・千代翔馬・ 琴恵光	<省略>
6 日目	白鵬・阿武咲	御嶽海・碧山・魁聖・ 矢後・千代の国	貴景勝・玉鷲・逸ノ城・ 錦木・北勝富士・ 琴奨菊・豊山	高安・宝富士・佐田 の海・隠岐の海・ 遠藤・阿炎・勢・ 琴勇輝・千代翔馬・ 琴恵光
7 日目	白鵬	魁聖・矢後・ 千代の国・阿武咲	貴景勝・玉鷲・ 御嶽海・北勝富士・ 碧山	高安・逸ノ城・錦 木・北勝富士・琴 奨菊・隠岐の海・豊 山・遠藤・阿炎・勢
8 日目	白鵬	魁聖・矢後・ 千代の国	貴景勝・玉鷲・ 阿武咲	御嶽海・碧山・ 隠岐の海・豊山・ 遠藤・阿炎
9 日目	白鵬	千代の国	貴景勝・玉鷲・魁聖・ 矢後	隠岐の海・遠藤 ・阿炎・阿武咲
10 日目	白鵬		玉鷲・千代の国	貴景勝・魁聖・ 矢後・遠藤
11 日目		白鵬	玉鷲	貴景勝・魁聖・ 千代の国・遠藤
12 日目			白鵬・玉鷲	貴景勝・魁聖・ 遠藤
13 日目			玉鷲	白鵬・貴景勝
14 日目			玉鷲	貴景勝
千秋楽			玉鷲 (優勝)	